



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

松の縁 角組芦柳
 野老 継木 海苔
 春の 苗代 飯后
 燕

伊勢踊巻目録

春の上

伊勢踊巻第一

元日

天乃戸やあきさうりや

伊勢大官司 精長

得松や今の神代は

山田氏 風松

言渡りも及さうりや

朝熊出野間 不徳

腰を打たれりや

松後孫勘院 政安

神の喜三門松や

山田氏 宗徳

立寄りもあきさうりや

山田氏 氏益

と朝の目いふ

津菊川氏 忠知

神の喜三門松や

宗徳

包針もあきさうりや

宗徳 利

男松め松らりや

宗徳 去辰

伊勢満ちを合はし錦やかき給
山不動院 頼養

年如美乃ら心ちな夜の神風
松坂竹由氏 仍信

地久しを永ま自れ神乃喜
山田勝本氏 久利

突餅や奇よわしく神乃喜
松坂松尾氏 次陳

君ふ代いも世もわらまはる喜
加賀甲氏 武頼

いんく加何古何神乃喜
山田綿吉氏 文昭

神乃喜同い志あも海利妻
日小林氏 吉照

柁もくし清し神乃喜
江戸住 吉春

きも姑するも衣服乃神乃喜
松坂村田氏 重決

手如給也縁返す心清め給
江戸名米由氏 忠重

得羅やむいほも神乃喜
山田松木氏 吉延

大いとも神乃神乃喜
國松屋氏 吉任

神乃給やわろか神乃喜
同中田氏 友己

いんくも白く神乃神乃喜
江戸山平氏 武直

下とて給言やうく神乃喜
山田山口氏 定重

己乃給やも明し神乃喜
山田加納氏 友納

天照や白く神乃喜
撰者 加友

岩戸のてあふた神乃喜
山田法會 慶彦

六十ノ歳
いんくも神乃喜
江戸山平氏 玄札

伊勢満ちを永ま自れ神乃喜
京之住 季吟

新書八高よしつる神乃喜
松坂村田氏 三信

年玉八風も納めあふまはる
加賀金沢氏 因元

君もあふまはる木博神乃喜
同 同

美と給いんくも神乃喜
津南院 昌安

年徳や家此婦り此女神 江戸井氏 立志

年徳乃門の礼者や物まよて 同安藤氏 一口

年徳もくば地之ー江戸の書 江戸住 忠明

めろもれろる海いもー五の 松坂藤村氏 正万

書とそ是是よ都乃露小 同林井氏 宗畔

書とそい山田三方此ころ外 同中里氏 敷富

めろーしや芳ちり此集乃書 川崎村中 吉則

雷れ内よ書いよる酒乃醉 同

おき丸九よ一てん乃書春 同防住山氏 伯耆

性芳わかろるー臨ふ松門 松坂春陽 加傳

二平此松まろるーや門の礼 江戸井氏 若豊

若豊て年や書并此神徳山 山田西板氏 成豊

屠獲酒いこ下一味乃書小 同山口氏 定重

と約るや花乃新書門の松 大坂中坊氏 詮房

門礼やいふろるーぬ代乃書 江戸井氏 正恒

新書れ酒京や坊い今乃書 秋田村氏 吟智

書来てろろる年徳のかはら 山田南井氏 伊氏

こ乃字を明て程書徳の書 同

いんし年や海らぬ芳ろふ此春 照所信吉田氏 蟬子

上下やろるまそい入難書徳 江戸宅田氏 笑治

書い来てかろも御ろま加何小 三瀬下村氏 安治

改玉い加何延年の宝珠小 松坂まよる 善山

よの書此非標書れえ方ころ如 京三井氏 秋風

ほんのりと書め書徳ら此書海 水口甲賀氏 正朝

年玉八宝新録此清卷五
山田金吾

門松の二本を決りたる月
今板金氏 満展

年々々々々々々々々々々々
岩城佑之助氏 章利

唐松や我々々々々々々々
山田井上氏 上成

津比代のもへ重垣松をり
津伊藤氏 同

初陽や花の朝よ開大豆
景俊

云々々々々々々々々々々々
同

新書此氣角一也具新法師
奥の朝田氏 一車

かか〜門の〜代大録あり
京之住 一貞

門松や今此天下此喜の色
山田井上氏 正守

ねさまる〜天下や神と喜さ具
山田上 善隆

光陰の疾よりあはれわ今新巻
山田保氏 正定

時よあ〜年とわ新巻明心
山田金吾 元武

神くをす〜海軍也門の松
松坂重山書 直治

大年雪あけけり
山田井上氏 上成

去年の雪はゆるりた地所
山田井上氏 成重

昔とていつ〜ゆるりた地所
山田井上氏 成重

昔よりハたわり〜ゆるりた地所
山田井上氏 成重

〜ゆるりた地所の松とる初巻
山田井上氏 成重

後乃神ハゆるりた地所の松の門
山田井上氏 成重

かきりり〜ゆるりた地所の松の門
山田井上氏 成重

年法もき坂山乃ゆるりた
山田井上氏 成重

大直日か〜ゆるりた地所の松の門
山田井上氏 成重

土農二正月銘〜ゆるりた地所の松の門
山田井上氏 成重

山田口氏

門松や夏木よのけり得海

宗弘

めくくも流のう棚乃るまひ

山崎松氏

宗徳

武蔵うねり言や八幡寺月

江ノ島松氏

明重

元日は砂や息災延命酒

紀松木氏

元可

治まるは雪乃流代の老乃雪

江ノ島松氏

素勝

冬は葉の枯木も山乃のさう

日本井氏

重因

三乃喜と金持所乃い

松坂樹教寺内

天徳

考る年を考ねるうぬ辨外

山田中氏

用久

さうまのてう静夜のの雪

津川山氏

徳彦

春陽やあひのち花の雪は

射和徳内氏

三林

佐保那乃れ里ゆりうう交風

江戸新出氏

新信

美空も先めらけり今約の雪

山田中氏

未吉

門松や一社後法三ヶはち

松坂吉氏

三俊

君代や文はく流はひの松

一所報光寺

玄徳

昔も沙門松も宿禰ろ天り下

伊予松原氏

是菴

冬もかみかみけうあ者

豊前倉

一玄

冬もかみかみけうあ者

山田氏

若彦

すくうくはむあわあ松

松坂位

同

めて我もたはむく乃て年

七歳三

仍言

昔も我もたはむく乃て年

同松原氏

宗彦

雪乃片もさうて得るもと雪

同松原氏

友昌

世は源氏今もさうて得るもと雪

京

似空

商人の元年法をえ方の形

山田松氏

忠直

文よりよよはれの甚目正月 同は舎氏 国彦

松とて思よよ天下春埜地門 江戸見本氏 春菴

昔より田とてぬきし五は 山田松山氏 赤久

伊勢海やも年改むし枝梅 江戸練梨氏 一雪

いひ烟まも多き此三乃春 山田松尾氏 二休

古年突し程ひの解や 紀元白田氏 権法

商人の賣買秘人の出 越前氏 不及

かんが此常季や越て雨の 越前氏 象長

寛文文乃

今朝のさし清念はあれた 級塚古川氏 長年

口乃松平の常中江戸乃春 江戸彩橋氏 成清

縁よりし五起うす今柳 同前氏 勝定

流し魂や甚る物とて 山田松山氏 未保

弓ハ袋武や別乃春 同前氏 重次

蓋菜此米か 後か松永氏 惟中

歯うらむやあに細う 山田松山氏 未保

とらふか 山田松山氏 武清

歯堅や 山田松山氏 次陳

めて 山田松山氏 頼重

立其八 山田松山氏 四法

今其乃 江戸宅田氏 吉當

佐保娘の兄子 同前氏 同

年も 同前氏 詮房

連子 他は西村氏 重春

新玉今朝明徳乃喜良

宗朋

学てわふらうこつ二名

江戶藤氏 石圃

天香一ちまの神乃鼻其

山内氏 正實

とほひるゝ民ゆわもと

同得巻 信石

いらぬてとろが思すの宗

同得巻 信石

すくおきや年をもぬの

武頼

かろり繩乃雷や家門の松

泉氏氏 勝廣

乾卦君代流く三風

政安

今の政書と戸名民と

同

初其凡徳後わめて

同

屠獲湯を砂一えん

山之

名采と男は

志計

解酒や一葉一葉

衣辰

上あれ其

自良

門神は柳まのり

寸松

めて

友昌

今あぬる人

秋風

めて

友己

三好其

仍信

たあ

同

大初の字を以て名するは其の
同

門徒は其の後述の如く
教諭

くふ善なる名は其の如く
忠知

大初之字は例に非ざる
交友

学面第一乃其の如く
余田

大初は其の如く
重相

大初や今も其の如く
可重

大初は其の如く
信能

大初や一字の如く
長

大初は其の如く
吉

大初は其の如く
水友

大初は其の如く
笑

大初は其の如く
俊

大初は其の如く
貞

大初は其の如く
三

大初は其の如く
忠

大初は其の如く
湖

大初は其の如く
友

大初は其の如く
定

大初は其の如く
聖

大初は其の如く
二

大初は其の如く
易

寛文四年

加賀住

京東海氏

四日市

友巳

湖

忠

三

貞

俊

笑

水

吉

長

山

信

可

重

京

平

江

松

松

松

松

松

松

松

大姉の義民の白葉信未氏 助資

大姉の義民の白葉信未氏 宗宣

大姉の義民の白葉信未氏 明堂

流石の義民の白葉信未氏 心位

水戸の義民の白葉信未氏 重正

今朝の義民の白葉信未氏 俊氏

今朝の義民の白葉信未氏 宗彦

今朝の義民の白葉信未氏 友静

今朝の義民の白葉信未氏 徳芳

今朝の義民の白葉信未氏 資中

今朝の義民の白葉信未氏 安治

今朝の義民の白葉信未氏 武行

今朝の義民の白葉信未氏 永学

今朝の義民の白葉信未氏 心計

今朝の義民の白葉信未氏 一雪

今朝の義民の白葉信未氏 武跡

今朝の義民の白葉信未氏 因元

今朝の義民の白葉信未氏 同

今朝の義民の白葉信未氏 友巳

今朝の義民の白葉信未氏 細心

今朝の義民の白葉信未氏 政安

今朝の義民の白葉信未氏 政安

神乃代を聞き始る名伊勢 暦 系俊

思初は月を日とせ 暦 宗明

矢乃よ叶ぬ紙吟書初 下野五郎 元志

まろろの白正月は祝ひ地 江守山氏 重尚

腹赤

一と勢よ丁乙東鶴後赤 佐藤儀忠住 重尚

あちろろ後赤尚ほの神武 加友

懸お文

門之は中之賣う魚おぬ 久利

魚おぬ手孫と孫お結念 仍信

義おちくハ志此海木魚 因元

けいめも隠徳ぬ物や魚 同

半始をうもその山 加友又 重尚

門之手孫は言 政安

水祝

神子もぬき 重尚

男祝書あび 他意住 政光

女祝加 了也

まろろ加 董与

子目

まろろを祝 江守野氏 右尊

野松 友巳

清 豊臣二栗子 三花

清 豊臣二栗子 三花

春風をいひまのきみお見 政安

古舟引し松野をふり日 同

弓腰てまといひて引小松 安治

神保山大夫と引こまの 盛徳

子乃むをく雷くあ 景

毬丁付玉振舞胡鬼板 江戶田氏

あささくくうのくく玉毬丁 吉重

ぬりそく先あさ打子井 松住

胡枕板乃羽衣ひ 上翠

初寅 初寅

初寅 初寅

黄牒 三順

引 江戸田氏

引 江戸田氏

引 日山形

引 加友

卯杖 加友

正月八月始め卯杖 政安

き 不登

若餅 仍信

砂糖よりある 仍信

名餅 賀隆

七章

射殿乃給菜を摘ゆ味虫 江戸中村氏 吉辰

葵甲く傍り月此門徒寺 井上氏 正守

打たく其や乞も煮食物 松坂西院氏 順慶

氣は摘り花や日今具此 江戸中村氏 心控

花も人も其物何り此在 本谷山氏 明重

生る好まぬ其種集ま此の 山田普庵 二児

雪の草あはぬ此草好む 日田中氏 養室

阿のりおぬ其種世の此の 日田中氏 忠武

七もや其草一万後菜を 日田中氏 文昭

居心此あやしく佛地坐 野上圭生園慶 不省

降雪や大地和合此佛の 山田普庵 武辰

為よ摘は君をちり此草 日田中氏 貞次

同無よ摘めぬ其種お 日田中氏 政安

ぬきよ其種頂より佛の 同 同

かき合をたけおしく佛の 同 同

露乃おちりけれ舍利此坐 三林 三林

くよ其菜を古の種も今 吉重 吉重

咲と蒼む花や何ん此の 津守氏 施政

若菜 付 莖立 山田普庵 武清

福ふん粥うきるん初 山田普庵 武清

くまらし 劍叶種を飛胡蝶 山田普庵 重因

摘ちてうすゆりも菜之油 山田普庵 宗弘

うらにほあまらもるも 山田普庵 不及子

くたを喰まき人巾眉間尺

畏草山氏 一方

雪の流るる人の名橋ぬる葉小

佐中様忠住 重増

くくくこれ花をまき金久

江戸住 森崎

喰ふまき口よて作る流るる

山田中坊 快意

葉をまき口のまきひの作は物

佐中様忠住 自言

二とら橋れ枝をわ神し君なる

山田草木由氏 武在

玉を流るる葉集れわの葉

因守山氏 親信

骨れを援て家志をまき

京和由氏 直重

葉葉やまきまの世のひひ

明重 守常

くくくくはははははははははは

宗半 山田

葉もても竹をまきぬ葉

山田 念助

葉もても竹をまきぬ葉

惟中 満展

汁もてもむく一とや葉を

伊勢地を住 政光

橋人のまき橋をまきわの葉

山田長谷山氏 去勝

くくくこれ友まき丸をまき

白馬

白馬

武辰

南とまき葉をまき白馬

友巳

葉をまき

重真

葉をまき

細和

葉をまき

友巳

葉をまき

友巳

葉をまき

友巳

葉をまき

友巳

葉をまき

友巳

葉をまき

友巳

左義長

左義長や京も田舎も自給 實

まきもやうも沙阿乃竹の烟 上琴

左義長も焼くも焼ぬ金剛 正行

日影もやうとわてさす 古堂

左義長の妻はあつた 若重

さきもやうはあつた 吉田

左義長の徳は徳 快玄

乞もも烟も煙も左義長 湖春

左義長の心は 政安

具足餅

志の具足餅 友昌

法師の具足餅 末調

具足餅 木玉

地も具足餅 音彦

甲斐の具足餅 吉春

あつた 吉則

すも餅 能政

かた餅 明彦

具足餅 同

大勢 左順

法然

末世 吉任

法然 次陳

佛皇よりしてき法然持師山崎良氏 政次

法と免ぬる山皇不十方淨宗 仍位

唱る中一念十念法然忌 吉徳

五郎

香る引ひくり茶田山山崎良氏 清忠

香うくは氣も浮ら茶海保氏 正定

孫院よりあはき室屋細水 芳重

鶴立とせん露れくもむ龜形多 吉則

のめは人乃のくうくう露水 久宗

人乃目よそ露外山露水松坂西定菴 友昌

松笠鼓あはき室屋あす三山 南貞

ちけ山をほんりり露す露 政次

木乃山は露あはき衣う船江戸貞氏 湘心

ちりくもきりもさる露 吉徳

八橋よりあはき室屋あはき豊前野氏 利

露り中と田れく乃神合羽龜形多 正徳

う露ははきける風は露水龜形多 清忠

月は光露乃洞やすくも 宗暉

酔る露はあすりもあはき三山 安治

田乃西は露乃衣中一二端 心計

海を引露や風のきり細 宗暉

去る露引くもさる浦露水 政安

於庚申待者

露砂常中悪鬼を様と島 宗暉

大江の舟を流る衣の衣の衣 徳展

山の岸風流の衣の衣の衣 俊家

其の衣を破るの衣の衣 笑哉

加賀の衣を破るの衣の衣 同

春の衣を破るの衣の衣 宗畔

法衣の衣を破るの衣の衣 同

すゑの衣を破るの衣の衣 同

まじらふ衣を破るの衣の衣 心定

衣を破るの衣の衣 幸彦

衣を破るの衣の衣 友之

衣を破るの衣の衣 良雅

衣を破るの衣の衣 基吉

衣を破るの衣の衣 三俊

衣を破るの衣の衣 一雪

衣を破るの衣の衣 可雪

衣を破るの衣の衣 正長

衣を破るの衣の衣 如鐘

衣を破るの衣の衣 露石

衣を破るの衣の衣 古堂

衣を破るの衣の衣 高直

衣を破るの衣の衣 正長

衣を破るの衣の衣 重勝

雪の初雪は花の房可實多野氏次木

雪の初雪は花の房可圓以谷氏言次

雪の實は花の房可信能

雪の雪を花の房可正重

雪の雪を花の房可飛入

雪の梅は花の房可三林

雪乃初雪は花の房可悠勞

雪の梅は花の房可洞和

雪の梅は花の房可定重

雪の梅は花の房可政安

雪の梅は花の房可三同

雪の梅は花の房可一同

雪の梅は花の房可加米

雪の梅は花の房可光政

梅

梅は花の房可友巳

梅は花の房可玄札

梅は花の房可或於禪寺

梅は花の房可津之住

梅は花の房可昌英

梅は花の房可吉則

梅は花の房可美濃赤松氏

梅は花の房可因元

松梅も公をいなり連河

後服氏 是信

ちと見分て思ふまゝなる

毒の草

重昌

神木此梅の源氏う白ふ君

津川村氏

重因

終梅やうまき日のもなき

全勝

梅唐嵐は花やほろふ日

次陳

三井氏のまゝし初梅を見分て

難波津をうふ社と井常の

毒

仍信

帰夢やうん在信此梅の伝

江戸子安氏

蟬子

梅花よ付種冊見念いもふ

京山氏

宗久

梅花にうらも見ふ年頭

山田丹羽氏

宗友

垣の内へふものさく梅暦

尚辰

久雪を好し梅や遊子

玄法

うふ顔うして強き花の兄

田原氏

信春

量りて乃海師の梅法師

松坂山陰氏

卜琴

おゆよ来てふらふ梅は

出羽川氏

正弘

木とりてはくもか来じの

加茂

加求

お花やふゆぬ編と梅

春菴

吟雪

梅さけと詠よ河ゆも里い

久利

春菴

は花やゆくふたれ大徳り

後上氏

久利

おしぬ身重は梅花の易凡

山田中氏

忠行

暖梅や白ふうすまれ麻射香入

加茂住

未存

終梅やうまき此白ひふ

信能

信能

初梅や一枝ほ觸れ花の香

松坂住

玄也

花乃兄ハ下志ヲ後ヲ能

多羽

重昌

瑞旨梅此言ハ勅旨其自外

利

花ハ開ク多ハ波梅此摩京

同

其ハ咲苦をカメ屋志ハ外

同

梅乃木立ニクニ同方人信

同

月おて思フ梅種ウニ志ハ

毒

因長川氏

同

梅梅ハ花見津ウニ印ハ

三寶寺

宗宣

多ハ風是ク梅あハ梅乃益

僧昭

香ニ多ク小梅生ニ下花

加傳

加傳

種再ウケテ種梅此夏お草

野良住河ノ氏

易心

碎テ多ク也種梅此在河

吉照

初瀬十方ウヨ

あハ梅此まの津ハ外

同

同

大左産瑞梅此梅乃此席

同

里乃名ノ志ハハの梅乃世屠

偷閑

多ハ宿ナラウ新瑞梅此

江守梅氏

永氏

種梅ハ瑞ニ多クも津ハ外

伊多再梅

一閑

長余亦係エ氣ハ外種

政安

花を折人ヲ瑞望梅此師

山曾氏

多主

日ハ海ハ外志ハ外

久利

花乃種多クも志ハ外

安治

思ハ外家ヲ種梅此梅此

仍信

角川 母トシト梅ハ多クも古志

成清

種梅を折人ヲ志ハ外

志

蒼心花の梅深は麿 右明徳氏 昌次

勅使伝いしかり結号梅 美濃小林氏 信昭

南枝梅初て開く麿う形 美濃小林氏 淡武

花さぬわら金鐘梅あま 松坂有松氏 吾入

咲ぬるは花考し中々梅本印 野田川崎氏 林白

鐘梅は白し通うふらひ垣 江戸川氏 冬下

露が秋を風物ゆふ花の 幸名濃氏 心計

鐘梅はさくもさくゆらぐ花 幸名濃氏 勝重

風の香に花梅あめ花は後 加賀住 吉長

梅うら玉珠りの太早雪 山田中西氏 一系

為露乃思きぬ梅はさくら 山田中西氏 岩流

わらせさぬ人もさうら梅麿 江戸川氏 政長

さうらうさうらふの園の春 江戸川氏 宗武

文字見しわがわあやの麿 江戸川氏 真云

為露はめくむ梅かごとく 信能 重春

難波津うさぎを梅は白 野原大徳氏 信能

花の梅乃すふらさるふ白 江戸川氏 善孝

釣まじりふらふ白くは梅 野原大徳氏 卜吹

園乃花は白くは梅は 野原大徳氏 善胤

鐘舞名をさけ付し見の花 加賀有田氏 善家

鐘梅は白くは梅は 加賀有田氏 可之

花梅は花のさうら梅は 山田中西氏 宗弘

咲らした梅は 山田中西氏 善音

梅此花神と云ふ中々表雪

加文

初午

初午此粥ハ福哉乃清徳

滿展

夕陽ハ之初午此日ハ

三俊

初午ハ二十又ハ乃ハ

朱后

春日祭

人乃目ハ之ハ其ハ

如鐘

夕ハ申ハ之ハ其ハ

仍信

佛子

仏ハ之ハ其ハ

香吟

寺ハ之ハ其ハ

安后

佛子ハ之ハ其ハ

仍信

後乃其ハ急テ其ハ

政安

亦業ハ其ハ其ハ

政安

仏滅ハ其ハ其ハ

永学

是ハ其ハ其ハ

凡松

亦業ハ其ハ其ハ

三林

入滅ハ其ハ其ハ

栄三

其書

其書ハ其ハ其ハ

其書

其書ハ其ハ其ハ

其書

其書ハ其ハ其ハ

其書

其書ハ其ハ其ハ

其書

其書ハ其ハ其ハ

其書

あめや流河子新雪佛 加花

霧と暮さうあゆみの雪女 玄結

袖の雪もさうせんうはまらふ 因元

日足とてけゆるをたの雪に 豊白

雪の日はあまの風はな 卜成

地ふみたる雪を春風は白子 若政

夏まは雪を産むまゝの雪 吹雪

雪の日は雪は布衣はあはれ 因

雪ははたは雪のまゝの雪 吟雪

雪さけの雪をあまの雪 宗細

雪はて名の雪もまらふ 二休

雪風も雪は雪は雪 心計

雪人の雪は雪の雪女 松竹三井

雪の日は雪も雪 心由

雪女は雪は雪 若則

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

雪は雪は雪 雪雪

浪磨のしやきも今をきき
山田住 仍信

花と見て同じ毒物と書けり
丹波住 文保

月若くは清くも昔の白くも
山田住 吉宗

昔も衆のゆきや雪佛
山田住 弘聖

春歩

春のやまを歩けり
丹波住 弘明

風は清くも水は清くも
丹波住 正光

春のやまの時ふれり
丹波住 移

法乃もも春よふてき
丹波住 弘聖

日よあはれいふ川や川
丹波住 卜吹

昔風あはれいふ
丹波住 宗信

春のやまはれいふ
丹波住 末秋

餘寒

春のやまはれいふ
丹波住 三俊

酒のめも春よふてき
丹波住 文昭

雪も春よふてき
丹波住 不説

春水

春のやまはれいふ
丹波住 定重

春のやまはれいふ
丹波住 春菴

春のやまはれいふ
丹波住 正由

土筆

春のやまはれいふ
丹波住 直政

春のやまはれいふ
丹波住 活道

小形の母のふりかき
雪の綴や打掃のまじり
堅

椿

もろもろのふりかき
作り花や赤くしては
久利

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
昌次

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

さよと捨つあつら
花やまよの掃ふ
重彦

木目

のこ相乃木のめり
ぬのいぬぬの目
政安

青森より目角をとりて

仍信

松の緑

浦より市松の紀州の

松後

抱くより市松の

三信

佐保姫市十八公

吉長

松風は多の松の

吉也

角組芦

角組て芦をとりて

吉之

麻の根より芦の

政安

見ゆれば乃の

吉昌

角組乃とて

友貞

柳

かきとひ佛といふも

文友

ちくちくかき

玄礼

ち柳のこちち

幸茂

系脈より風氣

二休

の柳は湯お

治房

其より柳の

吉任

ちありぬ

重良

月は風より

因元

小柳より

伊氏

細の屋より

明重

雪積る枝

勝草

津くも髪や西朝より枝柳 江戸住 仍信

川原の柳を舟のや新柳 津伊左氏 景慶

猿まゝといふも来北柳 江戸住 仍信

笑乃眉や面をよる小柳魚 江戸住 可直

喜柳の腰巾よりぬく蜘蛛 松坂三井氏 弘重

蛇乃目あきて洗ふ石 松坂三井氏 同

川風よ三つ指綴りう大柳 同 同

木作りは接もやよかん柳製 同 同

門よあらしひる中二玉乃古柳 同 同

梅の香をたうきく小柳製 同 同

号やあしあやまふ小柳 同 同

とらぬは是も目ま柳製 同 同

川づも岸もまもる枝柳 松坂本 同

必まゝ大流乃新中柳 津田倉氏 同

野光 同 同

津くも髪や西朝より枝柳 江戸住 仍信

川原の柳を舟のや新柳 津伊左氏 景慶

猿まゝといふも来北柳 江戸住 仍信

笑乃眉や面をよる小柳魚 江戸住 可直

喜柳の腰巾よりぬく蜘蛛 松坂三井氏 弘重

蛇乃目あきて洗ふ石 松坂三井氏 同

川風よ三つ指綴りう大柳 同 同

木作りは接もやよかん柳製 同 同

かりまゝのいぬとては産紀石全氏一入

継木

あり流のぬ継極伊氏

よふ歌よまやのまほくい甘極明重

名木一人のめて家継極松坂常全氏昌把

一順のとも系此花の継極江戸多野氏不孝子

うこそぶよれまう継極吉則

継ふ花の綿のまろの如同

まを風乃名よる勢極白悟智南

梅もちつわも極江戸住蝶子

花乃兄継し物や程京尚道

氣乃色や継極川邊山尾氏正直

海苔

かりを流め海苔小なれぬ級小

を流やちんは電極海苔美登

流まは海苔や波京るま衣貞

い甘のり海苔いせ松坂乃玉藻七知

貴てと海苔吉弟足も多岩城時氏古足如白

花乃波と鬼加傳る名火極加傳海苔

なごありと波市島まう市島千れ極市島海苔

花乃波や入勢極市島乃極市島海苔

改時や濱の市島まを極市島百足市島り

かりよ妻市島あ市島れ市島ぬ市島わ市島り

元海や流良雅も良雅ま良雅う良雅り

經乃級とるを定むしつは海 松坂宿田氏 道縁

春雨

昔も亦た教ぬ新雅松也 弘

昔も亦た入たけしうまぬ 惟延

昔も亦た依末百景此景 一笑

昔も亦た地よぬよ是 惟中

笑花いひひく通せ 一分

苗代

牛字のく人乃 昌把

牛字のく人乃 生良

牛字のく人乃 経清

牛字のく人乃 寺坊

牛字のく人乃 政安

牛字のく人乃 定重

牛字のく人乃 光保

牛字のく人乃 重吉

牛字のく人乃 重長

牛字のく人乃 念助

牛字のく人乃 信草

牛字のく人乃 友巳

牛字のく人乃 春菴

帰鴈

牛字のく人乃 春菴

まじりひもあしをたねに 伊集院 志也

埴はくも名をうり埴玉市 伊集院 二休

舟汁の骨を名をたね 伊集院 志也

備瀬乃とあし 伊集院 伊氏

有るまじりひもあし 伊集院 及氏

埴あし一字千金書の名 伊集院 忠愛

花を名をたね 伊集院 弘次

埴あし 伊集院 友昌

あし 伊集院 吉則

あし 伊集院 永氏

あし 伊集院 志也

あし 伊集院 志也

あし 伊集院 志也

あし 伊集院 志也

あし 伊集院 志也

あし 伊集院 志也

燕

あし 伊集院 志也

あし 伊集院 志也

あし 伊集院 志也

伊勢編題目録

春部下



花

桜

桜鯛付貝

春鳥

雉子

雲雀

春鳥

春月

蕨

莖

菰

葎草

春草

蝶

蛙

三月三日付

桃酒

桃

辛夷

海棠

躑躅

杏

沉丁花

白丁花

欵冬

梨花

藤付鯨

木蓮花

永日

名鮎

善道守忌 歌邊身拔 御新供
呼子多 春郭公 暮春
雜春

伊勢物語卷第二

花

一ほんち花乃親玉うひ山 景後
花もさうらふ風よ海もあは 風松
かほくまの房時よ花を食 玄礼
手と見て花の桜もや里常 二休
花も細杜康時よ酒もふ 卜琴
提重也花のあふふ閑る日 友巳
おのの流れもてあふさう花あ 立志
お花乃香水流の吉野川 丑清
落風よまかをまらる花送 山田益兵衛 元武
花をゆきてま見ゆり相捨 政安

花を露より思ふ人の氣は依然 仍信

梅乃三三場

飛花の風は多う三三場外 香吟

鈴鹿山歌もねも花は日 吉則

思ふ人も美奈より名花の波 正貴

玉を室と八月花を乃る目 友昌

ちこそ思ふ花よ鶴宮の風 三林

花を尋て山歌ううらに白

山より人あまううらをん

福芝花うら風そ志う花の心 京安 貞室

うらのむとほを思ふ花は心 心斗

思ふ人の気業あわや花袋 盛祝

^{止つち}大宅おんうら極き事花軍 吉徳

お花の奇な事あるうら法外 井上 正守

又又字やうとを花の事思後 重喜

^{吉野}お花の文や志はうら心 山 吟哲

花の美名いそてうら事 後 凡松

花はうら風や春乃雪の下 同

花軍より風眩病風も和 重因

花をゆへて波は情ふや心 亮音

紗金より花やあるうら花心 弘墨

花痛もかて花は乃る心 万香

花しくさ歌う味方う喜はぬ 志栄

さうは花は乃るうら 吉 吉之

花乃初の目れ目も日あり

津官修氏 勝正

鐘よあひ鉄丸をいしむ花

盛也

清由也七十又日とあさり

因

遊る花わうの情変れあひ凡

白子名鳴氏 重貞

花生そりる花のうきまの

野良守神氏 一友

花やうふふ花まきとる花

岩城修氏 勝盛

花ちりす花よふ花ねん

付垣修氏 寸松

花をほろば身をほろば

蟬子

見物わたりもきまのあ花しり

言三

とあひる花も日向目れ佛

宗宣

約あれたわとあひる花

信徳

花ありとる花うらむ花盤

俊家

むるこれ吉野の味もり茶

服了氏 信真

あつとわたりて味もり茶

松坂修氏 存的

短冊りてわたり付花のうら

政成

人丸乃清目もり茶

宗修氏 西伯

西行谷十方句

木佛よ花の中はて志不離

松後住人

一階花風よ破る花のうら

利

突つは花わらう花のうら

加良 赤貞

実持して清う花のうら

及頼

花乃枝と花あふ花

山家修氏 玄達

花のうらもり花のうら

松坂修氏 調和

花ははらひとる花あふ花

松坂修氏 重之

と那うもら花下木野

耳のうまあや目星風雲の

風をさすは雲も散むせうほ

九ひこを付名や雲の短冊

るまゝのよ下万うんまうり

まうても後中ら吹かた雲

花乃取のま他生れ縁生

芳好と大打まうま花生

之味も吹んて雲も花見海

飄草うらうらう何弱風

是事とやうん金とあうり花

屋せうとあうん一八著うん

祿も志うんむあ物と金造

吸い筒やわりの力とあ物と金

木城の上や打りす花見海

風後ふ竹花生やうんま

上をうんあうんうう花見

時もとあうんううう花見

花乃名に世界うんうう吉野

骨花を七河のぬ花乃舎

本と花乃木縁お慎や吉野

舌師もたれ乳をうんあ

上くは雲を花見れ車坂

同 山田村長 幸高

同 重昌 一頁

同 田 一友

左領 正清

弘次 心計

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

ゆきまじりしはらふ花の身を
用久

吉野の花を折る雪冠よ

イヤシハ人つらき花を
易心

六條右郡の幸は花のうほ
宗弘

気骨を折る色垣の花は
良弘

津くはる此中は流るる花
松坂信

風よ花の影をの白くも
昌抱

咲花の人乃て花をさく
同

花乃浪をぬく小社の流る
幸彦

咲ゆきハコもさうは花を
巡房

咲知家花ハ一物自れあふ
白子之住氏
元次

花を惜む心は花の身
信真

人酔や花一とハ乃て
吉任

根う入てまふは花の
同

花乃帯花乃細くゆり
吉治

蝶足も花をぬく
千勝

花乃流るる花を折る
梅盛

地をて花を折る花の
海尚

猿轡をめてよ花の
宗家

くむまはるる花を
友清

風はまのくま花を
友貞

花はまのくま花を
信実

吹雪のそく身もふれ嵐抄 因

焼食の候ふ乃もふ見抄 因

赤花の毛乞生威亡種れ色 柳也

ちり花の毛乞生威亡種れ色 柳也

梅並を鹿よきせり花の 香丸

赤花を臨むらゆ乃乱抄 二休

あつとまや嵐の花はちり丸 山田氏

花乃亂あつとまや嵐の 河田細谷氏

太刀風抄あつとまや嵐の 伊氏

食茶の又乱色あつとまや嵐の 加傳

花よ目の玉ぬきあつとまや嵐の 三林

花乃波よ人のあつとまや嵐の 同

あつとまや嵐の 松林氏

花あつとまや嵐の 伊住

あつとまや嵐の 宗時

清悪も花よ屋の風抄 不肩

屋よりあつとまや嵐の 貞良

山乃名れ赤花の嵐の 自戒

かきむきせり人の候と

あつとまや嵐の 不者

餘りあつとまや嵐の 口任

あつとまや嵐の 仍信

山乃うらや白一文字花乃雲 同

あつとまや嵐の 同

一枝八種入け激笑此等詠外 自白
去あまは佳制は格や花枝 同

高基寺くた思ふまゝのそと

お花のゆゑも迷ひのささ 同

花庭志ひて枝りはる木陰外 玄勝

いけ頭をとる市佳制の花軍 栄二

花の夢野月へ交舞人の武士 忠明

花の濃気ふかむれ花の気 友昌

花の白くあふるあふる時 同

あまの月隠すより花の香 同

よきの海も花の波打き下敷 心房

火を灯す花の木陰や星月 五葉

花の細く白河花たも路外 木玉

遠山乃花は人れうきり外 友巳

花のり布花あけ人ほの群 同

花軍さきふよ梅や巻をさき 同

花軍じよ風をあつる外 同

盲目も見流耳鼻れ白以外 青云

人乃洞とよふかやさふら外 伊氏

花乃るや系文といひ外 念助

風花多ふ花もさるる外 吉利

若花乃一つは是る花の面 同

花よきてあまをさる人れ外 同

花語ふ風吹ぬるや文由卿 偷爾

花乃手房吸きまじり加江住 智南

ふりもほの葉と雪加江住 吟智

入まを埋めたる雪も加江住 可九

花思え人なる加江住 矢小

花乃若きま加江住 信章

むよ風や加江住 吉巡

入おも又花り加江住 同

あといふ加江住 同

水よぬかく加江住 光船

柴ふも加江住 吉重

秋は加江住 信真

信ま加江住 必重

花軍木加江住 必負

とど加江住 能政

花乃加江住 明重

換の加江住 久利

喜ふ加江住 同

花瓶加江住 了善

花乃加江住 祐政

花軍加江住 清忠

かき加江住 同

奥山加江住 安澄

花思加江住 了善

花よ女の身あつて奴も恋ふ 聖徳太子 也矣

心も苦きも見ふ男心 仁寿天皇 正守

目の侍あまは 仁徳天皇 同

上野屋 仁徳天皇 同

山田三実もたぬ恋すうて

土田三実時 山田三実 竹六

昔風の 野原三実 元志

物 山田三実 詮房

念 山田三実 藤虫

懐 山田三実 致妻

を 山田三実 心校

あ 山田三実 上京

よ 山田三実 同

我 山田三実 同

見 山田三実 同

温 山田三実 同

此 山田三実 一煙

或 山田三実 同

や 山田三実 同

友 山田三実 久頼

あ 山田三実 志行

い 山田三実 一車

花 山田三実 正直

花 山田三実 正直

伊勢が友と排遣まよふ

世より世乃終るを集巻一

とらとふいせ確と名符評

しるくまよとふれつるり

ねらりあひまをれつる世乃

いるをながよ一枝を物一

ゆつハくまよのふれまふ

るよのこ

月花もつらふれあも伊勢の

西武

雲の海もつらふれあも

正貴

花をゆんくもつれあも

同

花のちりあつれあも

同

花のちりあつれあも

成伯

短冊や花なかくつれあも

政安

猿守は花は待依をあも

同

歌の無花の白の巾依依

同

とらとふいせ確と名符評

同

とらとふいせ確と名符評

同

とらとふいせ確と名符評

同

とらとふいせ確と名符評

同

とらとふいせ確と名符評

同

とらとふいせ確と名符評

同

壬三月

かきつてや三月は花小袖 吉廣
月よりも花は圓の年も花 玄札

桜

初花の身一鉢う花勢さう 政安
風の神は若くは翁とい世務 友昌
花を中り一芳男や伊勢さう 紫雲

あひさのうゝ花のたはさ

あは立尾よさうの世さう

かきつてや一伊心

文のうき態解比立尾を花 貞室

花よさうや野村まゝとい世務 玄仲

伊勢花のあも中津花 隆英

この後や葉はゆふは花 勝忠

鈴鹿山ゆふはてさう伊勢花 未湊

あ凡花さうも伊勢花 隆英

いひまのひねるは花 二貴

あはさうい花は花 正益

花見よは花は花 惟中

吹風もさうも花は花 友静

一里花もさうも花は花 加徳

伊勢花は花は花は花 未洞

いけさうもさうも花は花 隆英

梅は花は花は花は花 好く

花は蝶の神玉の舞うし世様 宗綱

空のしほの袖やたぐひは花様 心算

花よぬは御歌の神への世様 三好

恋も花の兒の兒の伊勢様 政家

道よ風や花を破るし世様 加友

伊勢様とては花やぬきよ 友巳

花をよすも花の細のいと様 美濃小川氏 崇友

弱もて見よとては花の世様 一頁

人の目よ花をよのいと様 重信

清も花のて見よとては世様 国之

海あは花をよのいと様 山田西氏 久次

世中の市たぐひは花の世様 宗宣

破風のしほ花をよのいと様 武昭

雲木も花のしほ花をよのいと様 明重

花の世よとては花の世様 立也

火よのしほ花のしほ花様 友静

花の世よとては花の世様 多後儀氏 自宣

花の世よとては花の世様 良雅

花の世よとては花の世様 宗畔

花の世よとては花の世様 文伊

花の世よとては花の世様 倫用

花の世よとては花の世様 幸彦

花の世よとては花の世様 或在

凡此難ふあやわかしき家様

政家

とてさふれわき死しぬ家様

友巳

花は凡強きや入ぬ家様

政安

こぬ命を待つ定家様

同

花はははいふ病も家様

忠行

凡ゆきははくもくも家様

野子

喜凡よ花ぬり神様

存的

傷房よ家様者も家様

友貞

凡此かきく子様けり家様

孝女

児様うはのこちう家様

吉辰

木物りく一人を敬様

及秋

花の乱れわきぬ家様

宗明

児様笑つてわ様家様

隠童

昔はまをまの心様人様

安通

名あり狼父い様人様

昌莫

ねちりくよ八十年も様

十琴

雪とちう女様心様

まこ忍

花の雪ぬり神様

重正

昔戸のなみ家様家様

江戶長坂氏
房之

咲花は心様心様

音田

ねく甘ぬ一様心様

幸吉

花よあやぬも様心様

友昌

枯木よ心様心様

友貞

花の雪ぬり神様

後前福盛
貫

花乃花をさうらひぬ梅 京森 翠

花乃花をさ一物いぬ梅 政 女

花乃花をさ思ふ梅 井 去氏

花乃花をさ思ふ梅 心 守

花乃花をさ思ふ梅 可 雷

花乃花をさ思ふ梅 下 琴

花乃花をさ思ふ梅 同

花乃花をさ思ふ梅 重 因

花乃花をさ思ふ梅 海 展

花乃花をさ思ふ梅 伊 氏

花乃花をさ思ふ梅 亮

花乃花をさ思ふ梅 三 友

花乃花をさ思ふ梅 正 續

花乃花をさ思ふ梅 心 斗

花乃花をさ思ふ梅 志 智

花乃花をさ思ふ梅 吉 壽

花乃花をさ思ふ梅 宗 宣

花乃花をさ思ふ梅 三 林

花乃花をさ思ふ梅 和 計

花乃花をさ思ふ梅 一 笑

花乃花をさ思ふ梅 宋 氏

花乃花をさ思ふ梅 交 巳

花乃花をさ思ふ梅 政 次

火橋の端元の家世のうら 江島市氏 教曾

大橋より母ら此尾の花を命 昌利

虎の尾をぬむの落花の類 同

火をともす花や虎の尾 尾 宗栄

虎の尾の橋や縁あり 宗順

にほふあよす虎の尾は橋 仍信

煙電は花や風よみ 弘信

煙電は花や風よみ 一玄

煙電は花や風よみ 因元

煙電は花や風よみ 正恒

煙電は花や風よみ 加求

花見も持焼合 忠知

花見も持焼合 宗徳

花見も持焼合 心斗

花見も持焼合 名標

花見も持焼合 望友

花見も持焼合 直政

花見も持焼合 吉隆

花見も持焼合 一口

花見も持焼合 昭栄

花見も持焼合 卜彦

花見も持焼合 玄托

未世まで名うて流きて櫻河 忠明

花よ風よまきぬる未だ櫻河 安治

春酒の酔よさうや花の文 守勝

ぬきぬ櫻河のちを所人 吉重

花乃名の流うさうい 廣政

酒樽中のまはらうて櫻河 惟中

聖徳の實徳の木は櫻河 仍信

梅よまきぬるあつて櫻河 良祐

時るといひかゝるさう 吉則

吾をまきぬる鼻の折基は櫻河 三俊

日るの流ゆかあま 全直

花よ流くぬきぬる櫻河 吉則

あま 正守

櫻河を歌よ詩人や流り 因元

櫻川乃水衣う花のそん 勝定

花衣まそ見ぬる 同

櫻鯛付貝 親信

奇人や早よ阿ちう 友巳

松浦沼や釣もいぬ 重

一色ふと理乃枝 信徳

あは 未湊

煮ての 三俊

花 安治

梅のつらき人乃新理也 喜勝

一わやさふ海心さう 江守田氏 任心

ゆきうほごちれい波も梅 正光

梅さあくち岩打浪は梅貝 同

あつひありと祿は社さ梅真 は墨畏 内下

花ねりもろち河津の梅真 言重

春名

晴りまふひり梅さる 相持村 武陳

晴る声れりして梅さる 仍信

さうはる初春梅さる 教唯

琴を引りもち梅さる 駿河住 政之

梅さるち氏より巢さる 名初 重昌

巢さるちち梅さる 細石 植茂

梅さるち梅さる 三俊

ち梅さるち外生の花の時 友巳

梅さるち梅さる 系俊

梅さるち梅さる 西村氏 吉昌

梅さるち梅さる 岩倉氏 加必

梅さるち梅さる 負良

梅さるち梅さる 吉盛

梅さるち梅さる 白井氏 本久

梅さるち梅さる 声 本久

梅さるち梅さる 梅さる

えとらぬまのこを焼く社子
ありむのぬねの志史社
雄雄まのしらん社声の焼
加友

雲雀

平よりしきやとりの社
上は文の料理て何れ社
参流色よけて想や雲雀
骨の疲て方かぬ社
政栄

春鳥

其の雲雀はひて屋も
武家子孫を継る社
社名やまの社
正貴
所望
盛勝

棋政乃家也社
勝忠

春月

勝月此桂男也
勝月此桂男也
厚紙て丸紙焼や
川之の河を此社
滝梨乃月の社
月也あぬ社
奇社社も前社
信能
三信
政安

藤

せんもいそそ
藤も風よ手
未汲
吉則

朽信して多岐皮とする藤小 政安

五のむしてほもを括軒藤小 京勝 光正

あつほやけし藤小も藤小 宗安

魚六油かれば藤小 出羽 光陳

わつ藤小も藤小藤小 上琴

手かりや大系ゆ藤小 同

清ぬ雷よ藤小藤小 宗總

凡よ藤小を叩て藤小 曳白

か、お藤小地中も藤小 津波 光政

あうこつよ藤小藤小 伊氏

手も足よ藤小藤小 心計

まん丸ふ藤小藤小 日

引手あまこ藤小 武松

藤小はこ藤小山平藤小 用久

山平はあつて藤小 明重

鬼もわけて藤小藤小 喜云

手あまこ藤小藤小 重次

子藤小は藤小藤小 京西 正永

風林と藤小藤小藤小 正弘

ぬき藤小藤小山あひの藤小 三林

解りて藤小藤小藤小 正平

けり藤小藤小藤小 加友

莖

はての藤小藤小藤小 吟碧

あまのりきりきりきりきり 草 吉則

あまのりきりきりきりきり 草 政安

あまのりきりきりきりきり 草 之利

あまのりきりきりきりきり 草 正成

あまのりきりきりきりきり 草 素明

あまのりきりきりきりきり 草 貞良

筋

あまのりきりきりきりきり 草 有春

あまのりきりきりきりきり 草 政安

あまのりきりきりきりきり 草 吉野

鞞草

あまのりきりきりきりきり 草 宗綱

あまのりきりきりきりきり 草 弘次

あまのりきりきりきりきり 草 吉野

あまのりきりきりきりきり 草 宗宣

あまのりきりきりきりきり 草 正則

あまのりきりきりきりきり 草 上京

あまのりきりきりきりきり 草 深

あまのりきりきりきりきり 草 一頁

あまのりきりきりきりきり 草 水友

春草

あまのりきりきりきりきり 草 系後

あまのりきりきりきりきり 草 政安

あまのりきりきりきりきり 草 同

何ちや水を好むまら
信能

仲行乃板より引かぬ
一頁

換るゝ前書より一
信

まじくぬちの
三信

おれ書たほく
因元

宗あすわちほる日七重宗
春春

まじくぬちの
江戶松浦氏
心利

二十代集
上巻

南足より付
何内住
依重

三重より組重
宗徳

まじくぬちの
同

教入をま
同

蝶

らまうま
明重

まじくぬちの
伊弉

親なむち
玄仲

風つ
伊弉
玄水

笑ぬるは
因元
娘

花は
上巻

花の
湖春

花の
芳吉

百年
不切

蛙

あまのこんで入を布二位の尾蛙 きん

まの湯のちのまのまのまの蛙 ねん

原はあまのちのまのまのまの蛙 とろ

子漢小田村の蛙 まき

業をの田入の蛙 おれ

苗代乃美登の蛙 まの

そのまの井中むの蛙 かじ

蛇の道 と

池のまのまのまの蛙 まの

まのまのまのまの蛙 まの

あまのこんで入を布二位の尾蛙 まの

松原のまのまのまの蛙 まの

奇袋がまのまのまの蛙 まの

一方もあまのまのまの蛙 まの

あまのまのまのまの蛙 まの

蛙 まの

月影 まの

あまのまのまのまの蛙 まの

池や河波 まの

唐 まの

蛙 まの

伊勢国

十二

伊勢国

十二

ちまうり餅や揚枝も 伊集院 因

突つんとらまるやまの 伊集院 一滴

松のよの焼たるの 伊集院 一口

位は吉しきまるおのの 伊集院 政安

蛤はまし 伊集院 信真

雛こ 伊集院 美礼

桃も 伊集院 不切

凡ふ 伊集院 印

下か 伊集院 宗宣

政ま 伊集院 正行

碎く 伊集院 元武

とと 伊集院 言達

曲ま 伊集院 万雪

毛も 伊集院 次原

今い 伊集院 一雪

桃

桃も 伊集院 政安

足あ 伊集院 成清

見み 伊集院 立也

風か 伊集院 玄仲

花は 伊集院 正安

見み 伊集院 一口

辛夷

浪よ安花はごんゆりうりゆ 是菴

南枝より開くはゆきゆき 政成

花のぬれぬををらふゆき 同

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき 如雲

海棠

あひかふも花や一天をいひ 明堂

あひかふも花や一天をいひ 正弘

火をゆきへ周は小あまうい 不及

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき 仍信

花のまゆゆはか来下深は 宗畔

終へ風よあやふ深感のい 三俊

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき 勝定

乃至法かいう花をもま 加傳

躑躅

石根よとこれる雪も白は 栄二

軒遇突智う雪はゆきゆき 武清

松陰も雪もあふと未は 凡松

あふゆきゆきゆきゆきゆき 重信

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき 永氏

あふゆきゆきゆきゆきゆき 友貞

杏

花の鈴やかりゆきゆきゆき 武辰

かりゆきゆきゆきゆきゆき 慈傳

かつ桃をわの辨又花の如 如雲

白丁花

写繪をいしてまゝらん白丁花 武彦

お初もとあふた相う白丁花 正守

白ひいりもあも白鶴白丁花 末重

白丁花

ほろり枝よあすす新花白丁花 宗重

いけ垣や池乃きこの白丁花 同

款冬

山吹花あふ花や金り 丹生住 幸彰

山吹花花は花のまは螺貝 赤岩保 瑞心

あけそくもくもくわて咲金宗 旗権

款冬やうらあし深花花衣 加友

梨花

生花浦八岸枝花未_ら梨花 山見氏 悠吉

嵐吹きもあふそあし梨花 友久

山形乃肌や洞裏の梨花 宗後

藤付花鯨

ふよきを魚花もあれ_ら家 山見野氏 成伯

はあやうい木逆ちのそりん_らまうのり 越前江氏 吉葉

花ゆるやあし棚引_ら家守_ら心 石谷氏 吉昌

杉小宿家_らな_らを_らあ_らま_らう_ら遠柳 山見氏 文伊

花はほやをさく_ら白_ら田_ら子_ら備 山見氏 文伊

下_らも_ら花_らな_らえ_らの_ら子_らも_ら花_らの_らゆ_らち 上戸 文伊

舌をよみまふはたやさうりぬ 三也

ひらりまらうりぬらうはぬん 方言

まのつゝのしほわねはひつらぬ 山田流丸式 光重

米あつて松をさうちあふ家の 一方

とぬんかまは待うんよまの 横田教聖氏 延之

まう人よんまのまの 松の 如法

あ引乃山をた屋まうらぬ 友巳

あぬまや永く一白もさう まき名柱 杉門

ぬはるやかぬ保を松のま 同之

ぬ波や松系越してせねり 弘次

松柳もぬ系氏のちやひき 友昌

ぬ文や結も高は柳つ物 二休

山松の木まふまのちやぬ 右次

うはぬをそ練るぬの木はま 泉谷河氏 氏重

ぬ梅よかまぬぬのち校ぬ 仁年

ぬ花のまらぬまのぬぬぬ は梨

うかまうふより谷へのうりぬ 教昌

ぬ波や川乃ちやぬぬ 未汝

まのぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 重正

ぬらぬをぬぬぬぬぬぬぬ 全直

ぬ波や川乃ちやぬぬぬぬ 幸次

ぬらぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 吉徳

ぬの棚ハさうぬぬぬぬぬ 昌方 武珍

木蓮花

露花玉八雲一母木蓮花

宗暉

とわは露花玉蓮花の木蓮花

曳白

永日

九うしてなまふふ世世す

三信

露花玉ふふ蓮花の蓮花

政あ

露花玉ふふ蓮花の蓮花

野呂丹氏

氷け道と目ふふ蓮花

武重

夫ふふ橋りし蓮花

加友

小鮎

ねふふりたりの小鮎

言重

小鮎ふふ罪科いの地獄網

丹生平忠氏 正賢

小鮎ふふ足頭けの蓮花

松枝人住

若る守心

そり物や若るも守心

加修

若る守心様蓮花の蓮花

田把

そり物や若るも守心

友清

若る守心の蓮花

重基

釈迦身裁

欲あの中離れ釈迦の蓮花

求笑

力持ある若る蓮花

交文

御新供

御新供よりすりや若る蓮花

重良

御新供よりすりや若る蓮花

政安

呼子名

傳多なふるよまきあや呼子

任心

傳今の中使乳くらけ呼子

天知

善郭公

善よりも呼はれしき善公

伊氏

善もてやまれ初物ほしやす

用久

善もて名宗の時呼くはら

利之

善もてまきとく候や郭公

好之

一せしが善かきまぐや郭公

吉應

交をまきよたふらふ善公

友静

善春

けしり鞠めくも善の善

永学

あつさう善いあふあう善

重因

いぬもさあつ三月

心愛

虎足を踏や善の善の善

重安

おたねあす三月志ん善

重政

子金も善の善の善の善

浩石

くれさうて善ぬ善の善

同

雜春

老乃眉半は霜とく先

宗順

天上乃賭弓あねも三月

玄仲

木をまきとくや善の善

吉則

あつさうて善ぬ善の善

古掌

をこせを也見すしん善の善

安治

妻あつ猶ハ好ハ物犯ハ手宮爲食米南

山口氏の人子を殺す事行

河原やあまふれ子持鯉 中勝

麻の角も落す八天逆の放下 露泉

枝の葉のたむらひ此處外 古掌

三喜此復よます此様本外 文昭

大夫妻へちやうと妻も去るお長野氏香信

東風吹物七里もきすう葉名お長野氏瑞重

あつさうけつは海も去るお長野氏重相

負るんよけくく鮎の勝外 吉田

山焼の事をお出れのうー外 是用

野原をるるけく病も去るお長野氏久四郎

妻やあふ縁ころひあひも井上心守

松もた野もるるよ三烟外 同

寺新う落の色はあが乃經 吉隆

花乃事もやうをけくお長野氏心計

妻此山六笑佛う釈迦の獄 政妻

あよすすて葉ををりくお長野氏能政

又葉肉ををりくる今中縣外お長野氏可権子

名よめて伊勢は清柳お長野氏成伯

葉もや打お事のはしらお長野氏同

元就はく井とわいんお長野氏成益

あそくかてお花はあまお長野氏光元

地をうりてましく白雲お長野氏等判

